



Closure report 2025

終了報告書

ルワンダ共和国
キラムルジ地域開発プログラム

RWA-187343 (2008年~2025年)



ありがとうございました
皆さまのご支援により、人々が変わり、地域が変わりました

栄養バランスのとれた食事をしている世帯

2015年



51.8%

2024年



94.6%

衛生的なトイレを使用している世帯

2010年



23%

2024年



97%

文章を理解しながら読むことができる小学校6年生の割合

2017年



63%

2024年



92%

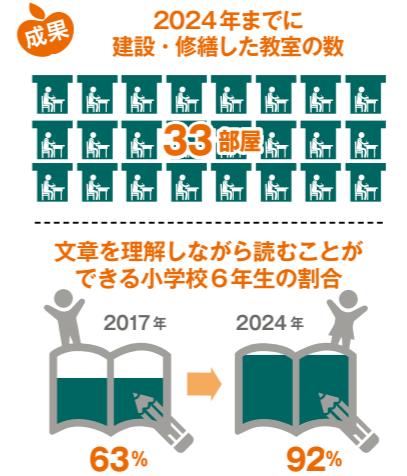
Education



教育

教育環境の整備で
学びの質を向上

1994年のジェノサイド(大虐殺)により、多くの教員が命を落とし、学校も破壊されました。国や国際機関、NGOによる復興支援が行われたものの、老朽化した施設の放置や、教員・教材の慢性的な不足により、多くの子どもたちは長年にわたって不十分な環境で学ばざるを得ませんでした。そうした中、ワールド・ビジョンは政府と協力して、幼稚園から高校までの学校の修繕・建設を進め、教育の質を高めるために教員向けの研修も実施。さらに保護者や地域の子どもたちに教育の重要性や子どもの権利について伝える活動を続けた結果、より多くの子どもたちが安心して学び、将来に希望を持てるようになりました。



マネージャーよりごあいさつ

ケレン・ケビコミ

キラムルジ地域開発プログラム マネージャー

Livelihood & Peacebuilding



生計向上・平和構築

住民の和解と
生活支援を通じて、
地域全体を支える

ジェノサイド後、多くの人々が深刻な貧困と心の傷を抱えたまま暮らしていたことを受け、ワールド・ビジョンは、住民同士の和解と関係性の再構築を促すため、「平和の木」プロジェクト(※)を実施しました。また、経済的な自立を目指し、毎月住民が少額を積み立てる貯蓄グループや、畜産研修の実施、共同で農業を行う仕組み作りなどを支援しました。こうした取り組みにより、収入が向上しただけでなく住民同士の助け合いの意識も育まれ、地域全体の安定した生活につながっています。

※平和の木プロジェクト：ジェノサイド生存者の心の回復を後押しする取り組み。詳しくは右ページのコラムをご覧ください。



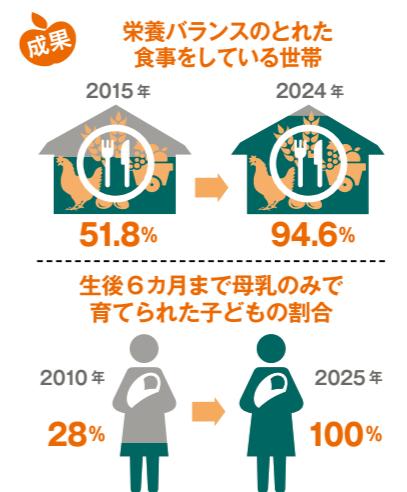
Health & Nutrition



保健・栄養

地域医療の整備と
子どもたちの
栄養改善を実現

支援開始当初、キラムルジ地域には保健センターが1カ所しかなかったため、妊婦の多くが通院することなく自宅で出産しており、衛生面・安全面で大きなリスクが伴っていました。またHIV/AIDSに関する知識が乏しく、感染予防が進まないことや、5歳未満の子どもの栄養失調も深刻でした。こうした状況を受け、ワールド・ビジョンは地域に小規模な医療施設を建設。妊産婦への産前・産後健診を行ったほか、HIVの検査とカウンセリングなどを実施し、病気の早期発見と予防に努めました。乳幼児を持つ保護者を対象に行なった栄養指導は、地域全体の子どもたちの健康状態の改善につながっています。



『平和の木』プロジェクト
—ワールド・ビジョンと人々の対話から生まれた取り組み—

肩を組むローズさんとパトリックさん

ルワンダで1994年に起きたジェノサイド(大虐殺)では、兵士のみならず、一般市民までもがナタを持って隣人を殺戮し、わずか100日の間に約80万人が命を落としたと言われています。その後、国は安定を取り戻したものの、加害者と被害者はジェノサイド収束後も深い心の傷を抱えながら同じコミュニティで暮らしています。こうした人々を支援するために、ワールド・ビジョンは「平和の木プロジェクト」を実施しました。このプロジェクトでは、被害者と加害者が互いの家に果樹の苗木を植え、相手の家に通ってその木の世話をします。日々顔を合わせる中で、互いを理解し、少しずつ和解を目指すこの活動は、ワールド・ビジョンと地域の人々の対話から発案され、「憎しみを次世代に残さたくない」という人々の強い思いで推進されました。家族を殺害されたローズさん(写真右)と、その加害者であったパトリックさん(写真左)もこのプロジェクトに参加し、心の平和を取り戻しています。

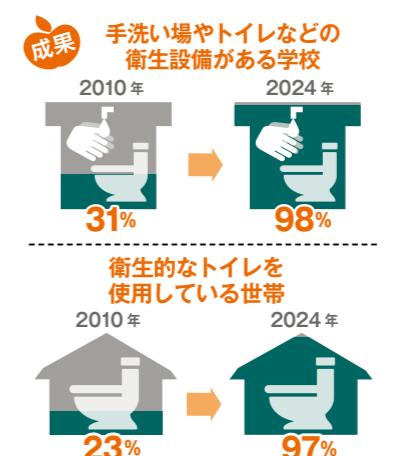
Water



水衛生

安全な水と衛生環境で
子どもたちの健康を守る

支援開始前、水くみは子どもの仕事とされており、毎日重たい水を何時間もかけて運ばなければなりませんでした。しかし苦労して運んだ水は水質が悪く、多くの住民が下痢などの症状に苦しんでいました。また、食事の前やトイレの後に手を洗うといった基本的な衛生習慣が根付いていなかったため、感染症の予防が難しい状況にありました。このような課題に対し、ワールド・ビジョンは地域や学校に安全な水が使える給水設備を整備し、さらにトイレや手洗い場の設置も進めました。並行して、手洗いや衛生習慣に関する啓発活動などを継続的に行ったことが人々の行動変容につながり、今では子どもたちの健康状態が大きく改善されています。



皆さんとともに歩んだ17年間の支援と成果

準備期

2008年度
▼
2009年度

- 支援対象地域での状況やニーズの調査
- 地方自治体および地域住民とともに、調査結果に基づくプロジェクト実施計画の立案
- 地方行政、地域住民、関係者との協力体制を構築
- 地域住民が積極的に関与できるようなプロジェクトの企画・立案



養蜂小屋を住居にして暮らしていた家族

第1期

2010年度
▼
2014年度

- 農業生産性と収穫量の向上を目的とした、農業研修の実施
- 就学前教育センター2棟を建設
- 教材や学習に必要な資材を、学校に提供
- 地域リーダーや保護者を対象とした、子どもの教育の重要性に関する研修の実施
- 学校に給水設備を建設
- 学校給食を開始するための、保健スタッフに対する研修を実施



支援によって建設された就学前教育センターと、遊具で遊ぶ子どもたち

第2期

2015年度
▼
2020年度

- 貯蓄グループと金融機関を連携し、融資を支援
- 学校と連携し、読書コンテストを開催
- 学校のトイレの建設（障害児用の個室を含む）
- 小学校の教員を対象とした、新しい教授法の研修
- 新たな校舎2棟を建設
- 学校に本や教材を提供
- 医療従事者や保健スタッフに医療用具や備品を提供
- 栄養改善プログラムを実施するための、保健スタッフを対象とした研修の実施
- トイレの建設のための資材を各世帯に提供し、衛生に関する研修を実施



学校に建設されたトイレ

第3期

2021年度
▼
2025年度

- 極度の貧困状態にある世帯への支援
- 地域の保護者を対象とした、就学前教育の重要性を訴える啓発活動を実施
- 医療施設に、母子保健サービスのための基本的な医療機器を提供
- 母子保健に関する国際的な啓発イベントの実施支援
- 給水施設から学校に水をひくための設備を設置
- 支援終了後の各活動の移行計画に関する、関係者との話し合い



医療施設に設置された水道

支援を受けたチャイルドのストーリー

「安定した生活と、家族を支える力を得ることができました」

オリヴィエさん
(21歳)

オリヴィエさんは、母親と4人のきょうだいと暮らしています。かつて、一家の生活はとても厳しいものでした。「母は一生懸命働いていましたが、基本的な生活費をまかなうことすら難しく、私もきょうだいたちも学校に通うことができませんでした」。オリヴィエさんは家計を助けるために、ほかの家庭で水くみの仕事をしていましたが、得られる収入はごくわずかでした。

そんな生活は、彼がワールド・ビジョンの職業訓練を受けたことを機に大きく変化します。バイクと自動車の運転免許を取得し、運転手として働くようになりました。

「今では1日あたり少なくとも4,000ルワンダ・フラン(約408円)を稼ぎ、きょうだいたちを学校に通わせることができます」と、自信に満ちた表情で話すオリヴィエさん。毎日十分な食事も取れるようになり、家族全員が医療保険に加入するなど、安定した生活を送れるようになったと言います。「経済的に自立できた今、地域の貯蓄グループにも参加して、将来は土地を購入して自分の家を建てる目標にしています。私と家族の生活を立て直す機会を与えてくれたワールド・ビジョン、そして支えてくださったチャイルド・スポンサーの皆さんに、心から感謝しています」

